

杉並区教育委員会 へ

子供園名 杉並区立下高井戸子供園

子供園長氏名 五十嵐 美緒子 印

令和2年度教育課程について（届）

このことについて、杉並区立子供園の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり
お届けします。

記

1 教育目標

(1) 子供園の教育目標

人権尊重の精神に基づき、多様な生活経験を通して互いを尊重する心や規範意識の芽生えと豊かな感性を育み、生きる力の基礎を培うため、次の幼児像を掲げて教育を推進する。

◎自分で考えて行動する子 ○ 自分も人も大切にすること ○ 心身ともに健やかな子

(2) 子供園の教育目標を達成するための基本方針

- ア 身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤を繰り返しながら、知的好奇心や思考力の芽生えを培い、自分で考えて行動する幼児を育てる。
- イ 特別支援教育を充実させ、保護者や関係諸機関との連携を図りながら、すべての幼児が学級の一員として安心して過ごし、共に育ち合う学級づくりを進め、自分も人も大切にすることする幼児を育てる。
- ウ オリンピック・パラリンピック教育としてスポーツ指導者との交流の機会を生かし、心も体も弾む体験を積み重ね、自ら体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育てる。
- エ 仲間と協同して主体的に活動に取り組む経験を重ね、幼児が自信をもって活動に取り組むことができるようにし、小学校以降の生活や学習の基盤を培う。

(3) 特色ある教育活動

- ア 自園給食を活用し、栄養士や調理職員、看護師と連携して食育を進め、幼児が食や健康に興味や関心を持ち、保育者や他の幼児と食事をする喜びを感じることができるようにする。
- イ 長時間保育では、学年ごとや異年齢合同の保育内容の充実を図り、保育者同士や保護者との連携を密にしながら、幼児が安心して生活できるようにする。

2 指導の重点

(1) 教育課程編成、実施に関わる指導の重点

発達の特性に応じた遊びの充実を図り、自分で考えて行動する幼児を育成する。

ア 3歳児

- ・ 基本的な生活習慣を身に付け、一人一人の幼児が安心して過ごせるようにする。
- ・ 自分のしたい遊びを見つけて遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

イ 4歳児

- ・ 保育者や友達と過ごす喜びを感じ、園生活に必要な習慣や態度を身に付けるようにする。
- ・ 感じたことや考えたことを伸び伸びと表現したり、主体的に遊ぶ楽しさを味わったりできるようにする。

ウ 5歳児

- ・ 友達と共通の目的をもち、考えを出し合ったり協力したりしながら、遊びや生活を進める充実感、達成感を味わえるようにする。

(2) 環境の構成

ア 自分の思いや考えを表現したり、他の考えを受け止めたりしながら、遊びや生活を進める楽しさや充実感が味わえる活動を意図的、計画的に取り入れる。

イ 友達と一緒に体験したことを遊びに取り入れたり、遊びを学級全体の活動に展開したりする遊びの循環を進める。

ウ ICT機器を効果的に活用し、幼児が身近な事象や遊びの様子等を振り返ったり、友達に伝えたりする機会をつくる。

エ 園庭や、園舎内の環境の工夫をし、下高井戸子供園ならではの遊びを充実させ、幼児が自分たちで遊びを作り出す楽しさを味わうことができるようにする。

オ 長時間保育児が落ち着いて過ごせるように友達や異学年の幼児と関わる楽しさを共有できる遊具を用意するとともに、一人でじっくりと取り組める場や空間の工夫をする。

(3) 特に重点を置いて指導する内容等

ア 安全指導

○学校安全計画を基に安全な園生活を知らせ、幼児が危険な場所や事物が分かり、適切な行動を考えて遊びや生活を進めることができるようにする。

イ 特別支援教育

○特別支援教育コーディネーターを中心として家庭や関係諸機関と連携し、幼児の特性を理解し、個別指導計画を作成する。学期ごとの省察をもとに環境や援助の在り方を全職員で共有し、全ての幼児が安心して共に育ち合える関係づくりを進める。

ウ その他

○就学前の学びと小学校教育の滑らかな接続のために、高井戸第三小学校や近隣保育園と連携し、合同研修や幼児と児童の交流活動などを通して相互理解を深め、幼保小連携教育を進める。

○学期ごとの保護者会・保育参観・個人面談・月三回の学年便りなどの機会を活用し、保護者と幼児の育ちや課題を具体的な幼児の姿を通して共有し、全職員が連携して、子育て支援や子育て相談を進める。